

KANSAI Univ. News

2011年 1月15日 第391号

関西大学通信

The first issue was published on June 19, 1969 and renewed on October 1, 2009.

■CAMPUS TOPICS

関西大学福島学舎跡地に記念碑を建立

日本政府観光局「国際会議統計2009」で本学が私立大学第1位

■Kaisers 飛躍

- サッカー部
- アイスホッケー部
- アメリカンフットボール部

■「考動」するゼミ・サークル

- 化学生命工学部 白岩 正 教授、矢島 辰雄 准教授
- 学術研究会 広告研究部

関西大学福島学舎記念碑

関西大学の前身である関西法律学校は 明治19(1886)年11月4日 大阪西区京町堀の地に 大阪控訴院長児島惟謙(のち大審院長)をはじめとする当時の司法官たちによって創立され 関西の財界を代表する土居通夫 藤田伝三郎 村山龍平 鴻池善右衛門らの支援を受け発展を遂げた

明治38(1905)年に「私立関西法律学校」から専門学校令による「私立関西大学」に名称を変更した本学は 大阪市の市電敷設計画により 江戸堀校舎からの移転を決め 明治39(1906)年12月17日 この地に福島学舎を建設した 千坪余の敷地に洋館風木造2階建ての校舎を建て さらに第2号校舎を増築 図書館や武道場なども備え 多くの学徒がここに学んだ また 関西大学第一高等学校・中学校の前身である関西甲種商業学校も この福島学舎で誕生した

福島時代は22年余に及び 昭和4(1929)年9月16日 東海道本線拡幅工事のため 東淀川区北長柄の天六学舎に移転している

今日の関西大学の発展は 大学にかける当時の人びとのあつい思いがあったればこそなしたと言えよう

平成22(2010)年12月吉日

学校法人 関西大学



福島学舎



第2号校舎



図書館



表彰式で優勝の喜びをあらわす選手たち

サッカー部が43大会ぶり大学日本一

1月5日、体育会サッカー部が、第59回全日本大学サッカー選手権大会において、日本一に輝いた。準決勝で筑波大に劇的な逆転勝利をおさめ、決勝戦では延長戦にもつれ込む激闘を2-1で制し、最高の称号を手にした。

決勝の相手は難敵、中京大。試合開始から関大が流れをつかみ、迎えた前半18分。左サイドから上がってきたDF田中雄大さん(商学部4年次生)が絶妙のクロスをあげる。これにFW金園英学さん(文学部4年次生)が頭で合わせ、貴重な先制点を奪った。しかしその後は、中京大の素早

いプレーに翻弄され、何度もシュートを放たれるが、GK金谷和幸さん(人間健康学部1年次生)がゴールを死守しピンチを救った。

後半は防戦一方の展開が続く。堅く守りぬぎ、いよいよ日本一へのカウントダウンが始まる。だが、試合終了間際に与えたフリーキックはそのままゴールに吸い込まれてしまう。ラストプレーで同点に追いつかれ、延長戦へともつれ込んだ。

延長戦ではどちらも激しくゴールを狙い後半11分、右サイドを駆け上がっていたDF櫻内渚さん(政策創造学部3年次生)からのパスをFW

安藤大介さん(社会学部2年次生)が受け取り、クロスをあげる。FW奥田勇太さん(文学部1年次生)が値千金の決勝弾を頭でねじ込んだ。そのまま2-1で試合は終了。大学日本一のタイトルを手にした。

「みんなが一つになって勝ち取った試合だった」と藤澤典隆主将(経済学部4年次生)は喜びをにじませた。サッカー部は「全員サッカーで日本一」という最高の結果を残し、サッカーの聖地・国立競技場を後にした。



アイスホッケー部

アイスホッケー部が関西リーグにて全勝優勝

関西の大学アイスホッケー界はもはや関大の時代と言っても過言ではない。9月20日～11月28日まで行われた第57回関西学生リーグにて、アイスホッケー部が予選リーグ、決勝リーグを通して全勝で優勝。圧倒的な力で他大学を寄せつけず、見事3連覇を果たした。

予選リーグ序盤はなかなか関大のプレーができず課題が残った。しかし、チームは徐々に調子を上げ1位でプレーオフへと乗り込む。第2節となる関学大戦で早くも優勝が決定。山本遼主将(政策創造学部4年次生)は「全勝優勝できるのが1番なので大差で勝ちたい」と最終節へと意気込んだ。

対するは予選リーグ2位の立命大。開始早々2分にFW津久家優さん(人間健康学部1年次生)が先制点を挙げ、一気に流れは関大へ。主導権を握り順調に得点を重ねる。3-0とし迎えた最終P(ピリオド)。立命大も意地を見せ、キルプレー(ペナルティーによる数的不利)の間に1点を献上。直後にも一瞬のスキをつかれ、失点を許してしまう。一気に勢いづいた立命大だったが、猛攻もここまで。終盤に6人攻撃を仕掛けられるもののGK畑享和さん(政策創造学部3年次生)がゴールを守り抜き、結果5-2で勝利を手にした。

その後、アイスホッケー部は、1月6～9日まで行われたインカレ(第83回日本学生氷上競技選手権大会)に挑んだ。青山学院大、専修大を相手に順調に勝ち進んだが、東洋大に惜しくも1-2で敗れ、ベスト8という結果に終わった。



アメリカンフットボール部

甲子園ボウルを目前に、涙の敗北

12月13日、甲子園ボウル出場への切符をかけ、西日本代表校決定戦が京セラドーム大阪にて行われた。対するは、関西学生リーグにおいて僅差で勝利している立命大。死力を尽くした戦いのすえ、関大カイザーズはリベンジに燃える強敵を前に、20-37で惜しくも敗れた。

試合は関大が前半終了間際に、怒涛の追い上げを見せるも、後半、立命大に翻弄され追加点を奪われる。引き離された関大は好機をつかめず最終Qへ。WR高原直樹さん(経済学部4年次生)が75ヤードのビッグリターンを成功させ、QB池井勇輝さん(経済学部4年次生)がエンドゾーンへ飛び込みTD。意地を見せ付けたが無情にも試合終了。甲子園ボウルを目前に、選手たちの戦いは幕を閉じ、今シーズンを終えた。

終了後、スタンドから選手たちに激励の拍手が送られた。ベンチでは、選手たちが涙を流しながら、後輩たちへ熱い思いを託していた。池井さんは「小手先勝負では勝てない。(後輩には)立命大に負けないフィジカルを作ってほしい」と語った。果たせなかった日本一。後輩たちは、この敗戦からの再スタートを誓う。

(写真提供・編集：関大スポーツ編集局)

三次元の化学をデザインする

Q. 研究室の研究テーマは？

A. キラル化合物 (主にアミノ酸とその誘導体) の光学分割による合成が研究テーマです。

Q. 具体的な研究内容を教えてください。

A. アミノ酸は、構成原子や原子団の空間配置の違いから2種類に分けることができます。その2種類とは、たとえば私たちの右手と左手のように見た目はそっくりですが、決して重ね合わせることのできない鏡映しのような関係にあります。このような物質は、融点や溶解度などの物理的な性質は全く同じであるにもかかわらず、生体に対する生理作用や薬理作用が

異なるという不思議な性質を持っています。このような関係にある2種類を光学異性体といいます。たとえば、一方の光学異性体は、医薬品などの原料として有益ですが、他方は生体に対して有害となる事例もあるのです。一般に、このような物質を化学的に合成するとこれら2種類の異性体が1対1で混合された状態(ラセミ体)で合成されるので、それぞれを分離する操作が必要になります。これが光学分割です。当研究室では、合成したラセミ体のアミノ酸をできるだけ簡単にかつ効率良く光学分割し、それらを原料としてさらに高次なキラル化合物を合成することをめざしています。

Q. 先生を自慢するとしたら？

A. 白岩先生と矢島先生は、とても優しく理解のある先生方です。夜遅くまで実験を頑張っている私たちに差し入れをしてくださったり、実験以外の諸々の相談にも気軽に乗ってください。大学教授や准教授というと、どうしても硬いイメージがありますが、当研究室の白岩先生と矢島先生は2人ともそんなイメージを一切感じさせることのない、とても温厚でユーモアのある先生方です。



1列目左から2番目が白岩先生、3番目が矢島先生、2列目左から3番目が北野さん

北野 未来さん (理工学研究科M1)

Q. 研究室の雰囲気を読るとすれば、どんな雰囲気ですか？

A. 全体的にアットホームな雰囲気です。新特研生歓迎コンパや夏の合宿など、日ごろの実験以外のイベントも充実しています。もちろん、本業である研究には、精一杯の力を注いで取り組み、両先生の厳しい厳しい指導を受けています。研究成果が出ると、国内や海外の学会で研究成果を発表する機会もたくさんあります。やるときはやる、遊ぶときは思いっきり遊ぶ、メリハリのある研究室だと思います。

Q. 研究室の合宿や旅行などでの思い出はありますか？

A. 今年の夏は研究室のみんなで彦根荘に合宿に行き、学部の特研生と大学院生が半年間の自分の研究成果をポスターで発表しました。夕食はみんなで近江牛のバーベキューを囲み、とても楽しいひとときを過ごしました。また、翌日は彦根城等を観光し、とても良い思い出になりました。



研究室での実験の様子

考動するクラブ・サークル ● 広告研究部

世界は広告で溢れている…

Q. 主な活動内容について教えてください

A. 毎年Kandai Walker (以下KW) というフリーペーパーを発刊しています。企画会議を行った後、班ごとに記事を作成します。また出版社との交渉や出版費をまかなうために関大前のお店等に広告費をいただきに営業を行ったりと作成以外の活動もしています。毎年5,000部ほど発刊し、学園祭開催時期に関大前で配

布しています。その他毎週部会で「広告研究」も行っており、部員が最近気になるCMやチラシなど発表し、それぞれの視点から議論しています。

Q. このクラブ・サークルのいいところはどこですか？

A. 少人数なので意見が言いやすかったり、自分の意見が通りやすいことです。KWでは1年次生が発案した企画が採用されたりと、やる気さえあれば誰でも活躍できます。後とはとにかくアットホームなところですよ！ 毎期打ち上げやバーベキューや合宿などイベントが多くあり、自然と部員の仲が良くなります。

Q. なにそれ?? (コウケンノート)

A. 平たく言えば部の交換日記みたいなもので、日記やらハマっていることや何でも書いて良い

部長 竹田 沙織さん (商学部2年次生)



Kandai Walker 編集集中

ノートです。ほとんどの部員が部室に来たらノートをチェックする習慣がついているので使用率は高いです。ノートを通して部員の意外な一面を発見することができたりと、部のコミュニケーションツールになっています。

Q. 直近の目標はありますか？

A. KWの質の向上です。多くの方に手にとってもらっていますが、大学内での知名度はあまりありません。そのため、もっと記憶に残るようなものを作りたいと考えています。



2010年9月15日 in 名古屋

12月13日、新阪急ホテルで「第8回関西大学スポーツサミット」を開催した。

この催しは本学のスポーツ強化を推進する目的のもと、関西大学体育OB会との共催で平成15年度から開催しているものであり、大学関係者、体育OB会、体育会顧問・監督・コーチなど約200名が出席した。

当日は、サッカー日本代表前監督の岡田武史氏をお招きし、「スポーツ指導者に求められるもの」をテーマに講演いただいた。講師のこれまでの多様な指導者経験に基づく講演は、スポーツに携わるものにとって非常に興味深い内容であり、今後の関西大学のスポーツの発展について考える非常に良い機会となった。(スポーツ振興グループ)

魂の読書と知識の読書

高槻ミュージックキャンパスで12月15日、作家の玉岡おるさんによる講演会「読書への誘い」が開催された。ミュージックホールを埋めた社会安全学部の1年次生と一般の聴講者に向けて、玉岡さんは、織田作之助賞を受賞した著書『お家さん』を題材に、読書の重要性を熱く語りかけて下さった。

『お家さん』は、大正から昭和初期にかけて、神戸を本拠に日本一の年商を誇った鈴木商店のトップに君臨した鈴木よねの生涯を女性の視点から描いた作品。大番頭である金子直吉の倫理的で曲がったことはしないという哲学ゆえに、時代の荒波の中で破綻してしまった幻の商社。土佐出身の金子直吉は少年時代に質屋で丁稚奉公し、蔵の中で中国の古典を読破し、哲学・倫理を身に付けた。金子が後に展開する倫理観を大切に経営がこのときの読書によって培われた。玉岡さんはこのような読書について、人間を築く「魂の読書」と呼ぶ。神戸に出て鈴木商店に入社した後の金子は、世界規模での事業展開を推進した。金子は自ら海外に行ったこともないのに、読書を通じて、諸外国の主要な港について詳細な知識を持っていた。玉岡さんはこのような読書を「知識の読書」という。昨今、新書ブームで、「安く」入手でき「身近な」内容で「最短」で欲しい情報を得る「知識の読書」が隆盛の状況にある。しかし、不祥事件の続発する社会を見ると、哲学観・倫理観を築く「魂の読書」が不十分なのではないか。このように訴えて、玉岡さんは熱弁を締めくくられた。

講演会終了後のサイン会も賑わいを見せていた。

(社会安全学部教授 亀井 克之)

今宮戎神社の福むすめが関西大学を訪問

1月7日、関西大学が今宮戎神社の福むすめによる訪問を受けた。

本学が今宮戎神社福むすめの訪問を受けるのは3回目、これは、4年前から本学留学生が今宮戎神社の福むすめとして奉仕していることから実現したものである。

福むすめとして本学を訪れたのは、福むすめ留学生代表のNGO VINH HANG (ゴビンハン) さんと、HANG さんはベトナムにおける本学の協定

大学である貿易大学からの交換受入留学生である。

当日は、新年の挨拶を行った後、今宮戎神社を代表して福むすめから、本年度の干支である「兎」が描かれた額絵が本学に授けられた。

福島学舎跡地に記念碑を建立

12月17日、関西大学では、明治39(1906)年から昭和4(1929)年まで学舎を構えていた福島学舎の跡地の一角に記念碑を建立し、上原洋允理事長および市原靖久副学長が参列し除幕式を挙行政した。

碑文には、明治38(1905)年に「私立関西法律学校」から専門学校令による「私立関西大学」に名称を変更した本学が大阪市の市電敷設計画により福島への移転を決め、明治39(1906)年12月17日に学舎を建設したことや関西大学第一高等学校・中学校の前身である

関西甲種商業学校も福島学舎から誕生したことなどが記されている。

今日の本学の発展は、大学にかける当時の人びとの熱い想いがあればこそ成し得たものといえ、多くの出席者が建立された記念碑を見て当時の関西大学に思いを馳せていた。



除幕式の様子

日本政府観光局「国際会議統計2009」で本学が私立大学第1位

日本政府観光局(JNTO)が取りまとめた国際会議の統計「JNTO国際会議統計2009」において、大学キャンパス別の国際会議開催状況の項目で本学が私立大学第1位となった。また、国公立大学を合わせた開催件数においても、全国の大学の中で第9位となり、本学が国際研究拠点として国際会議を積極的に開催してい

ることが統計上にも表れた。

この統計は、日本政府観光局が国際会議統計基準にもとづき、2009年に日本で開催された国際会議の開催回数を取りまとめ発表したもので、詳細は日本政府観光局ウェブサイト(<http://www.jnto.go.jp/jpn/index.html>)にて紹介されている。

人間健康学部開設記念シンポジウムを開催 生きることと向き合う いのちと向き合う

12月12日、「生きることと向き合う いのちと向き合う」をテーマとし、人間健康学部の開設記念シンポジウムを、千里山キャンパス第2学舎4号館BIGホール100において開催した。

募集人数600人に対し、約1,300人の参加申込があり、急遽募集人数を増やし、当日は730人余りの来場者を得た。

基調講演では、国際日本文化研究センター名誉教授の宗教学者山折哲雄氏により、近代日本文学を代表する斎藤茂吉、石川啄木、宮沢賢治の3人が命をどのように捉えていたのかを通して、日本人の生命観について語っていた。引き続き、『「かかわりあい」』さ

さえあい』文化を育むために」をテーマに、元環境事務次官炭谷茂氏、山折氏、杉本厚夫人間健康学部教授、コーディネーターの岡田忠克人間健康学部准教授によるパネルディスカッションを行い、人間のつながり、新しい地域社会の創造について議論が展開された。

(堺キャンパスグループ)



KUカレンダー1/16-31

日程	イベント・行事名	主対象	問い合わせ先
16日(日)	すこやか教養講座(第1期)	学生・教職員・一般	堺キャンパスグループ
17日(月)	総合情報学部講演会 猪口邦子客員教授講演会	学生・教職員・一般	総合情報学部 会計専門職大学院
18日(火)	G・S・ジョンソン教授による最終講義	学生・教職員・一般	外国語学部
19日(水)	大学院社会安全研究科講演会	学生・教職員・一般	高槻ミュージックオフィス
	第4回 三大学(大阪市立大学・大阪府立大学・関西大学)連携公開講座	学生・教職員・一般	社会連携部地域連携センター
	外国語学部 Career Forum2	学生・教職員・一般	外国語学部
20日(木)	山口節郎教授による退職記念最終講義	学生・教職員・一般	総合情報学部
23日(日)	寄附講座「渋沢栄一記念財団(日中関係と東アジア)」	学生・教職員・一般	G-COE 拠点事務室
24日(月)	第4回 関大ふくい笑い講	学生・教職員・一般	福井県健康増進課 健康長寿推進グループ
29日(土)	伊藤達也客員教授講演会 ピーター・メイケン教授による最終講義	学生・教職員・一般	会計専門職大学院
30日(日)	飯田紀彦教授による最終講義	学生・教職員・一般	法文オフィス
30日(日)	すこやか教養講座(第1期)	学生・教職員・一般	専門職大学院事務グループ 堺キャンパスグループ

イベント・行事については、予告なく変更される場合があります。また、今後追加・中止となるイベント・行事もあります。詳細・最新情報については、本学ウェブサイトならびに問い合わせ先のウェブサイトなどで必ず確認してください。